

4 利根沼田地域 ～ ゆたかな緑と水に囲まれた「農業」「地域」を次世代へ～

＜地域概要＞

- 利根沼田地域は群馬県北部に位置し、沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町の1市1町3村からなり、総面積は1,766km²で県土面積の27.7%を占めています。耕地面積は8,748ha(H24)で、畑が78%を占め、畑作を中心とした農業が行われています。
- 赤城山北西麓ではレタス・ほうれんそう、トマト等の夏秋野菜やこんにゃくいもを中心とした大規模な畑作経営が行われており、首都圏への供給基地となっています。
- 沼田市白沢町や片品村などでは、雨よけトマト、だいこんなどの栽培が盛んに行われています。
- 観光客が多く訪れる地域では、りんごやぶどうを中心とした観光農業が盛んであり、地域の気候特性を生かした多彩な農業が行われています。



りんご園(みなかみ町)



ほうれんそう畑(昭和村)

＜現状と課題＞

水

- 管内の基幹農業水利施設は、開水路の他、トンネル構造の箇所も多く、開水路は老朽化によるひび割れや鉄筋の露出、トンネルは覆工のひび割れや地下水の湧出等により、施設の健全性が懸念されており、適切な保全対策が必要です。
- 雨よけトマトなどへのかんがい用水が不足している片品村等の中山間地域では、農業用水の安定確保に向けた支援が求められています。

土

- 路面の損傷が著しい道路や幅員が狭小な農道について、適切な保全対策や農道整備が求められています。
- 山間地から平坦地に至る広い範囲で発生しているサルやイノシシ、シカなどの野生鳥獣被害等により営農意欲が減退し、耕作放棄地の増加や離農が懸念され、早急な対策が求められています。

里

- 赤城北麓地域では、石綿セメント管等の水利施設が整備から50年以上経過し、近年は漏水事故が多発し営農への影響等が懸念されることから、計画的な施設更新が必要となっています。
- 耐震性が懸念されるため池は、早期に診断を行うとともに、必要な対策を計画的に進めることが求められています。

協働

- 農村地域の混住化や農業者の高齢化等により、地域コミュニティ機能の低下や農地や農業用施設等の地域資源の保全管理が課題となっており、農業農村への理解を促進するとともに、地域が取り組む共同活動等に対し継続した支援が必要です。

【目指す方向】

『水』の保全整備

- ⇒ 老朽化した農業水利施設の保全対策により用水の安定供給を図り、農業生産の安定を図ります。
- ⇒ かんがい用水の安定確保により、雨よけトマトなどの畑作物について、作付面積の拡大や生産性の向上を支援します。
- ⇒ 農業水利施設の維持保全等を担う土地改良区の更なる体制強化により、地域農業の安定化を支援します。

◆農業水利施設の保全と用水の安定確保

- 沼田平、追貝平地区等のトンネルや各種水利施設について、ライフサイクルコストの低減を図る保全対策を行います。
- トマト等の更なる振興を図るため、片品地域のニーズに対応した用水施設等の整備を支援します。



トンネル内(農業水利施設)の覆工段差状況
(沼田市：沼田平地区)

◆土地改良区の運営体制の強化の推進

- 土地改良区が運営体制の強化を図るため、土地改良区体制強化基本計画を自ら策定し、基本計画を踏まえた具体的な取り組みの実施により、将来にわたる適正な運営が進められるよう指導・支援します。

数 値 目 標	基準年 (H26)	目標年 (H31)
基幹農業水利施設の保全対策に着手した地区数 (地区)	3	5
保全対策により農業用水の安定供給が維持された農地面積 (ha)	643	1,374
土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区数 (土地改良区)	—	4

【目指す方向】

『土』の保全整備

- ⇒ 路面の損傷が著しい畑地帯の農道の保全対策を行い、通作と農産物輸送の効率化・安定化を目指します。
- ⇒ 幅員が狭小な農道の拡幅整備を行い、農産物輸送や通作等の効率化を目指します。

◆流通経路や通作道の保全

- 昭和村等の路面損傷の著しい道路について、ライフサイクルコストの低減を目指した保全対策に取り組みます。
- 沼田市等の幅員が狭小な農道等について、拡幅整備の支援を行います。



保全を実施した農道(昭和村：赤城西地区)

◆野生鳥獣被害からの地域農業の保全

- 野生鳥獣被害から農作物を守るために侵入防止柵の設置を支援します。

数 値 目 標	基準年 (H26)	目標年 (H31)
基幹的な農道の保全対策の実施延長 (km)	2.8	6.1
野生鳥獣被害防止対策を支援した市町村数 (市町村)	(4)	4

※基準年の () 内は、過去4年間 (H25～27) の実績であり、今後4年間で同数の実施・支援を目指す。

【目指す方向】

『里』の保全整備

- ⇒ 老朽化した石綿セメント管から硬質塩化ビニル管等への転換により、石綿の飛散による被害を防止するとともに、地域の主要産業である農業が将来にわたって安全・安心・安定的に継続されることを目指します。
- ⇒ 耐震性を有していないため池について適切な対策を行い、安全・安心な地域づくりと水利施設の機能確保による農業の安定化を目指します。
- ⇒ 農業集落排水施設の機能維持により、住みやすい農村環境の保全を図ります。

◆石綿セメント管による被害防止と農業の安定

- 赤城北麓地域で使用されている石綿セメント管を、計画的に硬質塩化ビニル管等へ更新します。



破損した石綿セメント管(昭和村：赤城北麓地区)

◆安全な農村づくり

- 耐震性を有していないため池について、施設の補強や補修を行い地震による堤体の破損や決壊等の被害を未然に防ぎます。
- 基幹農業水利施設（ため池を除く）の耐震性を把握するため、施設の耐震性の検証を実施します。
- 震度4以上の地震が発生した場合、管内8ヶ所のため池について地元管理者等と共同で緊急点検を実施し、早期にため池の状況を把握する体制を維持・継続します。

◆地域との連携による防災減災の取り組み推進

- ため池のハザードマップの作成を支援するとともに、災害発生時における防災減災を図るため、地域の危機管理体制の構築に取り組みます。

◆生活水準の維持・保全

- これまでに整備した農業集落排水施設について、汚水処理機能の低下が懸念される施設の機能診断調査、最適整備構想の策定を支援し、必要に応じて機能強化事業等による施設の保全対策を行います

◆中山間地域の振興

- 農業生産活動の継続や集落機能の維持、地域の活性化に向けて、都市住民との交流活動や集落ぐるみの活動体制づくりを推進します。
- 高齢化や人口減少が進む中山間地域において、新規就農者や都会からの移住者などの新たな人材を確保するため、地域の営農を踏まえつつ農業生産が行えるよう、農地や道用排水路、野生鳥獣の侵入防止柵の設置などの地域資源活用に向けた整備構想を作成します。

数 値 目 標	基準年 (H26)	目標年 (H31)
石綿セメント管の撤去延長 (km)	2.4	24.4
ため池震災対策工事の実施地区数 (地区)	—	1
耐震性能を確認した農業水利施設 (ため池除く) 数 (施設)	—	6
ハザードマップの作成を支援したため池数 (ヶ所)	1	8
農業集落排水施設の最適整備構想策定市町村数 (市町村)	1	4
棚田保全活動事業による住民協定締結数 (協定)	1	2

【目指す方向】

- ⇒ 緑とうるおい豊かな地域資源の保全を目的とした協働を支援し、多面的機能の維持・発揮を図るとともに、次世代に地域資源を引き継ぐことを目指します。
- ⇒ 地域の共同活動の推進により、地域コミュニティ機能の発揮を促進し、農村振興を図ります。

◆農地維持・資源向上・長寿命化

- 水路の泥上げなどの基礎的な保全活動や農道等の軽微な補修や植栽活動、施設の長寿命化等に取り組む組織を支援します。
- 活動組織毎に活動内容や組織の運営状況等の確認を行い、地域の共同活動を支援します。



芝桜の手入れ(昭和村：糸井地区)



水路の土上げ(みなかみ町：師田地区)

◆地域の実情に即した将来像の検討

- 地域資源保全管理構想策定における話し合いの場を活用して、地域における課題の把握や地域が描く将来像の検討をモデル的に取り組みます。

数 値 目 標	基準年 (H26)	目標年 (H31)
多面的 機能の維持・発揮が図られた農業集落数 (集落)	63	68
農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積 (ha)	3,046	3,473
地域構想づくり支援実施モデル地区数 (地区)	—	1